

教 育 長 様

代表者 校園名：大阪市立本田小学校

公印

校園長名：錢本 三千宏

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

申請者 校園名：大阪市立本田小学校

職名・名前：首席教諭 流田 賢一

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

代表者校園 事務職員名：大谷 由香

平成 29 年度 「がんばる先生支援」 グループ研究 報告書

◇ 平成 29 年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1 研究コース：いずれかを○で囲んでください。

グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース

新規研究（1年目）

継続研究（2年目 ・ 3年目）

2 研究テーマ

資質・能力を育成する国語科授業のあり方
— パフォーマンス評価を活用して —

◆ 研究内容のキーワード：

国語科、資質・能力、指導力向上、パフォーマンス評価、学力向上、カリキュラム・マネジメント、

3 研究目的：箇条書きで端的に書いてください。

- 次期学習指導要領でめざす児童の育成
- カリキュラム・マネジメントと学習評価の充実
- 資質・能力を育成し、汎用的能力が身についた児童の育成
- 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催
- 先進的研究校から講師を招聘し、公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大

4 取り組んだ研究内容：いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。

★研修会（月 1 回以上、グループメンバーと希望者による学習会）、

☆公開授業研究会・講演会（学期に 1 回実施する研究会）、

◇管外出張（視察や研修会参加等）

★4/21 打ち合わせ

★5/12, 5/28, 6/2, 6/26, 7/1 低学年教材の複数教材検討会、7 月の公開授業に向けての教材研究と指導案検討会：説明文「未来に生かす自然のエネルギー」

★7/3 公開授業研究会 小学 6 年生 説明文授業比較「未来に生かす自然のエネルギー」（提案・師範授業）、講演会、複数教材の指導助言を受ける

◇8/18 考える国語セミナー 物語文と説明文の実践報告と講演会に参加、複数教材の指導助言を受ける

★8/23, 9/1, 10/5 中学年教材の複数教材検討会、10 月の公開授業に向けての教材研究と指導案検討会：説明文「マンホールのふた」「感情」

◇10/14 松江まるごと 物語文「モチモチの木」対決模擬授業参観、講演会

★10/16 小学 3 年説明文「マンホールのふた」提案授業実施、小学 6 年説明文「感情」提案授業実施、師範授業小学 3 年説明文「アップとルーズで伝える」参観、講演会、複数教材の指導助言を受ける

★10/29 説明文「生き物は円柱形」の筆者本川氏の講演会「ナマコはすごい！」、小学 5 年児童、小学 6 年児童、教員、保護者、地域の方が参観

★10/26, 11/14, 11/19, 12/1, 1/10, 1/15 中学年、高学年の複数教材検討会、1 月の公開授業に向けての教材研究と指導案検討会：説明文「自然に学ぶ暮らし」

★1/22 公開授業研究会 小学 6 年説明文「自然に学ぶ暮らし」授業比較（提案・師範授業）、1 年間の取り組み発表、複数教材の冊子配布

◇2/9-10 筑波大学附属小学校 学習公開 国語の公開授業、分科会、講演会に参加

★2/1, 2/22 アンケートの集計作業、1 年間の研究のまとめ

5 成果・課題：申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

【成果】

- 次期学習指導要領を見据えた教師の指導力向上 カリキュラム・マネジメントを活用した指導法の提案
毎月1回以上実施している研修会（年間17回実施）には、本研究グループ以外からの参加を募り、複数名で議論を重ねてきた。指導内容だけでなく汎用的な力を育成することに重点をおいた「説明文の複数教材検討」、身につける力（用語）を整理し、系統性を意識した指導をするための「教材研究・授業実践」の2つの柱で研究してきた。「説明文の複数教材検討」は、大阪市採択の教材を中心教材として全教科書会社の説明文を検討し、身につける力（用語）の系統を意識できるようにカリキュラム・マネジメントを行い、整理してきた（図1）。また、カリキュラムの整理後、複数の教材の教材分析を行い、公開授業への指導案検討を進め、実践で示した。

研究会では、先進的研究校から講師を招聘し、公開授業と講演会を実施した。教科の本質に立ち返り、資質・能力である「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」をテーマとした。公開授業は本グループからの提案授業と講師による師範授業を提案、比較し、具体的な実践をもとにテーマに迫った。

アンケート結果からは100%の満足の回答を得た。国語の授業改善と次期学習指導要領を取り入れた公開授業や講演が好評であった。また、99%の教員は系統を意識した指導が大切であると回答したが、37%の教員は実施できていないと回答した。系統を意識した指導をする上で、説明文の複数教材の冊子（図2）が役に立つと、全ての教員が回答した。

○ 児童の学力向上・人間性の育成

1学期と3学期に基礎学力テストを実施し、平均点が8ポイント上昇した。この中でも特に、思考力・判断力・表現力に関わる部分の伸びが著しかった。これは、学期に複数教材を指導することで学んだ力を活用する場があり、確かな力が身についたと言える。また、言葉の見方・考え方を活用し、説明文の教材を論理的に考えられる児童が増えてきた。汎用的能力を獲得し、社会で必要となるスキルを身につけた児童は、問題を発見し、粘り強く取り組み解決しようと協働的に学ぶという仮説のもと実践してきた。その結果、学びに向かう力・人間性は、児童アンケートにより「わかった」「できた」と回答する児童が9割を超える、「国語の授業が楽しい」という項目の肯定的回答の割合は9割以上になった。

保護者の方からは、多くの教材を活用して読み方がわからることにより「日常の読書活動が豊かになった」「作者・筆者に興味をもって読書するようになった」という意見が聞かれた。ここから、学んだ力を日常に生かしていることが分かる。

○ 研究内容を広める 研修会・研究会の開催により、合計500名超の参加があった

月1回の研修会と学期1回の公開授業研究会を実施し、多くの先生に学びの場を提供した。公開授業を研究の要とし、グループ研修会を複数回実施した。ホームページ等で公表することにより、公開授業研究会には毎回多くの先生方にご参加いただいた。大阪市教員6割、大阪市外教員4割と他市から多くの参会者があり、本研究の注目度が確認できた。公開授業の内容はホームページで公表し、保護者・地域等多くの方に知らせた。また、「複数教材を活用した国語科説明文の指導の系統性」の考え方は毎回の公開授業研究会で公開し、講師の先生に助言いただいた。説明文の指導の系統性の冊子（図2）は参加者全員に配布した。

【課題】

- 冊子「複数教材を活用した国語科説明文の指導の系統性」を活用した授業実践を行い、引き続き検証をする。そして、複数教材で指導できるようカリキュラム・マネジメントを行い、指導時間を確保する方法について提案し、研究内容を広められるようにする。
- 今年度は説明文に焦点をあて研究を進めてきたが、来年度以降は物語文の研究を進め、複数教材の検討をしていきたい。
- 子どもに汎用的な力を育成するため複数教材で指導し、パフォーマンス課題を設定した。学習評価については、ルーブリックを明確化し、子どもたちが身につけた力を評価する方法を引き続き研究していく。

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程	平成29年 7月 3日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約180名
	平成29年 9月 29日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 30名
	平成29年 10月 16日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約190名
	平成30年 1月 22日	場所：大阪市立南百済小学校	参加者数：約130名



図1 複数教材を活用するカリキュラム・マネジメントの例

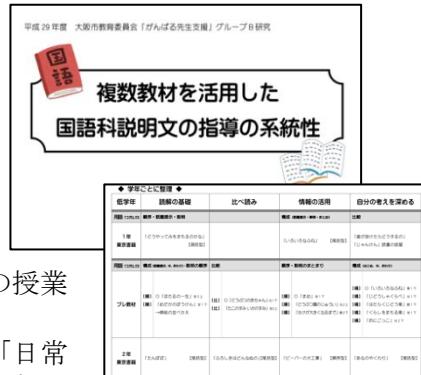


図2 冊子「複数教材を活用した国語科説明文の指導の系統性

上記の内容を、平成30年2月26日（月）までに、大阪市教育センター「がんばる支援」担当まで提出してください。（研究資料等を添付）